

第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会 大会宣言

「地球と旅する」をテーマとする白山手取川大会は、水の旅と石の旅をキーワードとする白山手取川ジオパークにおいて、2日間にわたり開催された。コロナ禍の中、3年ぶりに開催された対面での大会となり、あらためて、ジオパークで活動する人たちが集まることによる交流と議論の熱気が大きくすばらしいものであると感じることができた。

私たち人はこれまで多くの風景や新たな発見を求めて旅をし、その世界を広げてきた。風景を形づくり人の暮らしを支える地質や地形は、地球がこれまで長い時間続けてきた「旅」の軌跡として捉えることができる。人と地球はともに未来へ向けた旅をするパートナーであり、若者たちは地球の旅路にとって重要な次世代の同伴者なのである。

本大会では、人と旅のパートナーである地球の明るい未来のため、時空を超えて寄り添うイメージを持ちながら、地球環境、持続可能性などの課題に向き合い、感じ、学び、考えることができた。

ジオパークのネットワークを活かした活動を通して「地球との旅」の議論を深め、未来に向けて推進力をさらに高めるとともに、参加者それぞれが担う「持続可能な開発」の実現につなげるため、以下について宣言する。

【地質標本について】非持続的な鉱物採集、採掘に加え世界中で深刻な環境問題、労働問題が発生している。地域内外の関係者との学び合いや対話を通して課題を共有し、持続可能な社会に向けた責任のある利用の方法を考え実践する。

【教育について】これまで蓄積された副読本やガイドブックにSDGsのコンセプトを加え、パズルやカードなどの工夫で体験的な学びを展開できる。そのためにも私たち自身がまず持続可能な開発の本質をより深く理解し、学校との連携を推進する。

【自然災害伝承について】自然災害伝承碑は先人たちが子孫のために残した地球の記憶遺産である。ジオパークは、国土地理院のデジタルアーカイブへの登録と観光や学習への活用を進め、地域の人々とともに自然災害のリスク軽減に取り組む。

【新しい旅について】湿潤変動帯で生きる私たちは、今後も予期せぬ重大な環境変化に直面することを知っている。変化を続ける惑星の営みへの対応として、旅の常識が一変したコロナ禍の経験を糧とし、常に柔軟な姿勢で「新しい旅のスタイル」を生み出し、ツーリズムの世界をリードしていく。

【次世代との対話について】各地のジオパーク活動を支える23地域26人の市町村長等は、若者との対話を通して、ジオパークの未来を創る次世代の可能性を共有した。また、高校生を中心とする若者たちが、現地視察と対話を行い、ネットワークをつくった。今後は、世代内・世代間交流、地域間・国際交流などのネットワークを広げ、地域と地球の未来を担う人材を育成する。

【ユニバーサルデザイン(UD)について】ジオパークでは、すべての人が地球を想い、理解できるための「伝わる工夫」が必要である。そのために「UD的やさしさ」を広げ、すべての人に対する安全安楽を共創する。

【デジタルトランスフォーメーション(DX)について】ジオパークだからこそできるDXによって、日本そして世界をつなげ、地球を守り楽しむ活動を展開する。

2022年10月23日

第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会
実行委員会会長 山田 憲昭